

第10回（平成28年度）栃木県元気な農業コンクールいきいき農村部門受賞者紹介

☆ 農村活性化の部

(1) 審査経過

今年度の栃木県元気な農業コンクール（農村活性化の部）には各地から6事例の応募があり、地域の特徴を活かした6次産業化や都市農村交流等の優良な活動が数多く見られました。いずれも様々な創意工夫がなされており、地域活性化への意欲が伝わってくるものでした。

審査は「自主的努力と創意工夫」、「合意形成」、「推進体制の整備と運営」、「地域農業振興や活性化への寄与」の4つの基準にもとづいて行い、書類選考及び現地調査を経て、各賞を選出いたしました。

(2) 受賞組織の概要

● とちぎ元気大賞（栃木県知事賞・関東農政局長賞）

農事組合法人そばの里まぎの（茂木町）

葉たばこの生産減退による耕作放棄地の増加が課題であった牧野地区において、地元農家がそばを活用したむらづくりを始めたのが活動の発端でした。

現在では、そばや野菜の生産・販売、そばのオーナー制度、そば打ち体験、レストラン運営、加工品販売等を行っており、地域経済の活性化に大きく貢献しています。オーナー制度は、消費者が畑のオーナーとなり、栽培からそば打ちまでを行うもので、地産地消や食育にも繋がっています。

耕作放棄地解消の成果だけでなく、6次産業化の先駆的取組や地域のPRに繋がる幅広い活動、それらの活動を可能とする組織の運営体制は他の地域のモデルとなる事例であることから、とちぎ元気大賞に選出いたしました。



そば打ち体験



そばのオーナー制度（種まき）

● とちぎ元気賞（栃木県知事賞）

あきやま有機農村未来塾（佐野市）

過疎高齢化の進展による森林や農地の荒廃が原因で、鳥獣被害が多く発生してきたことから、地域住民を中心とした話し合いにより設立されました。

侵入防止柵の設置等による直接的な鳥獣被害対策のほか、野生鳥獣の隠れ家となる耕作放棄地の解消のため、茶や米、ヤマブドウの栽培を行い、農業体験や生産物を活用した加工体験（手もみ茶、地酒、ヤマブドウワイン）につなげることで都市農村交流を図っています。

また、地域外の若者やコミュニティデザイナーとの共同活動により、SNS等の新たな取り組みも始まり、今後の展開が期待できることから高い評価を得、とちぎ元気賞に選出いたしました。



農業体験（田植え）



お茶作り（手もみ）

● 特別賞（栃木県農業協同組合中央会長賞）

栗そば会（日光市）

高齢化や鳥獣害被害により幻になりつつあった、香りや味の良い「栗山そば」を復活させようと、地域の有志により会が設立されました。

そば栽培の他、そば店と協力した「栗そばまつり」の開催や、地元の中学生や観光客に対するそばの栽培体験を実施し、地域住民の意識向上や地域外へのPR等を行っています。

山林に囲まれた地域であるため狭小不整形の畑が多く、効率的にそば生産することが非常に難しい状況にありながら、地域の力を無理なく結集させ、着実に栽培面積と活動を拡大させている点を高く評価いたしました。



そば刈り取り体験



中学生との共同作業

● 特別賞（下野新聞社長賞）

ふゆみずたんぼ実験田推進協議会（小山市）

渡良瀬遊水地のラムサール条約登録に向けた話し合いを契機に、農村環境の整備や農村振興活動を行う団体として設立されました。

稲刈り後から春まで水をため続ける「ふゆみずたんぼ」における無農薬・無化学肥料での米生産やホンモロコ・ナマズの養殖及びそれらの加工品の開発・製造・販売を行っています。

また、ふゆみずたんぼのオーナー制度、農業体験、生きもの調査等の都市農村交流活動にも取り組んでおり、農業や農村の理解促進に貢献しています。地域資源を有効に活用した様々な活動やそれを可能とする運営体制を高く評価いたしました。



生きもの調査



稲刈り体験